と ドロシーと 思いはひとつ 子（個）の支援

Keyword：ほめる，はげます，ひろげる，新3H美術教育

1991年（平成3年）6月8日（土曜日） 中国新聞

孫が想像で「マンダム」

偉 七歳と五歳になる孫が時々、近くのわが家に来て泊まって帰ります。そんな時、朝夕仏前に礼拝する私の姿を見て、「なまんだぶ、なまんだぶ」と唱えて拝んでいます。

先日、五歳の孫が来たので「何を書くのが一番好き？」と尋ねると「ガンダム」と言うので、「マンダムというのもあるでしょう？」と聞けば「うん、あるよ」と、何も見ずに二十分くらいで書いたのを見て感動しました。

「なまんだぶ」の連想で、目を閉じて拝むガンダムを書いているのです。「これがマンダムいうんよ」と言います。

思わず胸が熱くなり「啓ちゃん、偉いね。仏様は、お兄ちゃんや啓ちゃんを夜も寝ないで、じっと見守ってくれるよ」と言ってやりました。

孫にとっては偶然の思いつきでしょうが、親ばかならぬばばかで、この子は小さくして仏縁が深いのだなあと思ったことでした。

ちなみに、マンダムというのはないのだそうです。

（広島市中区堺町2丁目 木村花枝・68歳・主婦）

木村さんのお孫さんの絵

写真投稿のお願い

シルバー世代の皆さんからの写真をお待ちしています。書画、手芸、盆栽、生け花など自慢の作品、クラブ活動や旅行での楽しい思い出、ご家族の皆さんとのだんらんの一コマなど説明文とともにお寄せください。カラー写真も可。掲載分には図書券を贈ります。送り先は〒730広島市中区土橋町7ノ1、中国新聞社文化部「いきいき交差点」係。

上掲記事のガンダムとマンダムは，“新３Ｈ（ほめる・はげます・ひろげる）美術教育”のありかた，とりわけ“ひろげる”営みの極意を学んだ記事でした。1991年（平成3年）6月8日（土曜日）の中國新聞「いきいき交差点」の投稿欄でした。いわく，

> **孫が想像で「マンダム」** 七歳と五歳になる孫が時々、近くのわが家に来て泊まって帰ります。そんな時、朝夕仏前に礼拝する私の姿を見て、「なんまんだぶ，なんまんだぶ」と唱えて拝んでいます。■先日、五歳の孫が来たので「何を書くのが一番好き？」と尋ねると「ガンダム」と言うので、「マンダムというのもあるのでしょう？」と聞けば「うん、あるよ」と、何も見ずに二十分くらいで書いたのを見て感動しました。■「なんまんだぶ」の連想で、目を閉じて拝むガンダムを書いているのです。「これがマンダムいうんよ」と言います。■思わず胸が熱くなり「啓ちゃん、偉いね。仏様は、お兄ちゃんや啓ちゃんを夜も寝ないで、じっと見守ってくれるよ」と言ってやりました。■孫にとっては偶然の思いつきでしょうが、親ばかならぬばばかで、この子は小さくして仏縁が深いのだなあと思ったことでした。■ちなみに、マンダムというのはないのだそうです。（広島市中区堺町２丁目木村花枝・68歳・主婦）

との内容です。さて，木村花枝さんの啓くんへのかかわりかたが“新３Ｈ美術教育”に重なり，ドロシー・ロー・ノルトの「魔法の言葉[*1]」にも重なります。すなわち「マンダムというのもあるでしょう？」に触発された啓くんは想像力と創造力全開でユニークな“マンダム”を創造したのです。「ひと言」のもつ重みを実感した事例でした。

*1　ドロシー・ロー・ノルト「子どもが育つ魔法の言葉」，2000，ＰＨＰ